

は、いまや出口の進学抜きには考えられないようになってきています。

大学合格実績のこの10年の伸びを見ますと、埼玉の高校全体で伸びていることがわかります。2005年と2015年の大学合格実績を比べてみましょう。最難関の東京大+京都大の合格者数は、県全体で85人から119人に増えています。さらに内訳を見ますと、国公立高校全体では64人から75人へ、私立高校全体では21人から44人に増えています。国公立高校の11人増に対して、私立高校は23人増で、この10年で私立高校が大きく伸びていることがわかります。伸び率で見ると、国公立高校17%に対して私立高校は110%に増えています。私立高校の伸び率が、はるかに大きいことがわかります。

次に旧7帝大（北海道大、東北大、東京大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大）の合格者合計を見ていきましょう。国公立高校が172人から235人になり伸び率は37%。私立高校は61人から121人で、ほぼ倍になっています。

また、私立大トップの早稲田大+慶應義塾大を見ると、2005

年の国公立高校の合格者数は1154人で、2015年には1110人に減っています。一方、私立高校は2005年に977人だったのが10年後の今年、1016人に増えています。

G-MARCH（学習院大、明治大、青山学院大、立教大、中央大、法政大）の合格者合計では、国公立高校がこの10年で3894人から5495人と41%増です。これに対して私立高校は、2808人から4057人、44%増でした。総数で私立高校は公立高校に負けていますが、伸び率では上回っています。しかも卒業生数は、公立高校が私立高校のおよそ2.2倍にもなりますから、私立高校の伸びの凄さがおわかりいただけるでしょう。

伸びた理由はどこにあるのか？

なぜ、これほど私立高校は伸びたのでしょうか。なにもせずに大学合格実績が伸びることはありません。私立高校は努力を重ね、生徒の第1志望の大学合格を果たすための取り組みを、積極的に行ってきたからにほか

なりません。

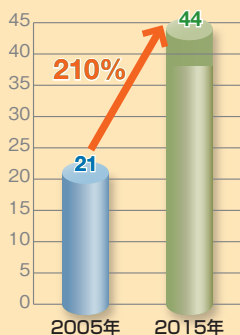
早朝の0時間目の授業を設けたり、放課後を活用しての補習授業、夏期講習や冬期講習、勉強合宿などを行ったり、さまざまな努力と工夫で、大学受験に向けた対策をとり、生徒の学力向上に力を注ぎできました。最近ではアクティブラーニングを取り入れ、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力などを伸ばす最先端の教育を展開しています。

私立高校は勉強漬けなのかと思われるかもしれませんが、当然ながら部活動や学校行事にも力を入れています。人間教育にも力を入れ、海外研修やフィールドワークなどを行い、生徒や保護者の多様なニーズに応えています。

多くのことに生徒を挑戦させることで、大学合格だけでなく、その先の社会に出て必要な社会人基礎力の育成を行っています。能力を伸ばすのに最適な高校はどこなのか。公立や私立の枠組みや、偏差値だけで判断するのではなく、学校に足を運び、自分の目で確かめてから志望校を選びましょう。

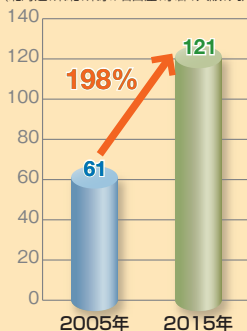
埼玉県私立高校からの大学合格者10年前比較

グラフ1 東大+京大

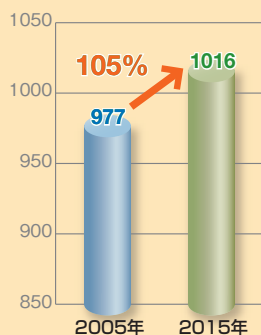


グラフ2 旧7帝大

(北海道、東北、東京、名古屋、京都、大阪、九州)



グラフ3 早稲田大+慶應義塾大



グラフ4 G-MARCH

(学習院、明治、青山、立教、中央、法政)

